

函館市立小・中学校再編計画

(素案)

平成23年12月

函館市教育委員会

目 次

はじめに	1
第1章 再編計画の基本的な考え方について	2
第2章 グループ別の再編の見通しについて	4
1 平成29年度における再編の見通し（一覧）	5
2 再編の見通し（グループ別）	6
(1) 第1グループ	6
(2) 第2グループ	8
(3) 第3グループ	10
(4) 第4グループ	12
(5) 第5グループ	14
(6) 第6グループ	16
(7) 第7グループ	18
第3章 再編計画の基本的な進め方および具体的な取り組みについて	20
1 統廃合の流れ	22
2 再編計画（第1期）	23

はじめに

函館市教育委員会では、市立小・中学校において、少子化による児童生徒数の減少に伴い、学校の小規模化が進み、クラス替えができないことや目的に応じた学習形態を取り難いこと、また、学校規模の小規模化に伴う教職員定数の減により、教員が専門外の教科の指導をせざるを得ないことなど、様々な課題を抱える中で、平成16年12月に函館市学校教育審議会に対して、「函館市における市立小・中学校の再編について」を諮問し、平成19年8月に答申を受けたところであります。

その内容としては、本市における望ましい学校規模を小学校はクラス替えが可能となる12学級以上、中学校ではクラス替えに加え、全教科の教員配置が可能となり、さらに授業時数の多い5教科で複数教員の配置が可能となる9学級以上、上限は小・中学校ともに18学級を目安とし、また、再編を進めていく上で、機械的に行うのではなく、「地域の実情を十分に踏まえること」や「教育環境の充実を図ること」、また、「小学校と中学校の通学区域の整合性を図ること」などとしています。

函館市教育委員会では、答申内容を基に、平成20年5月に再編グループの導入、地域性への配慮、通学区域の調整、スクールバス導入の検討の4点を掲げるなど、再編の基本的な考え方となる「函館市立小・中学校の配置についての基本指針（素案）」を取りまとめ、パブリックコメントの実施や地域別の懇談会を開催するなどして、平成21年3月に「函館市立小・中学校の配置についての基本指針」を策定しました。

本計画は、この基本指針で編制した再編グループの中から、具体的に再編の検討を行うグループを定め、学校規模の状況や学校施設の老朽化などを勘案しながら、順次統廃合や統廃合に伴う通学区域の変更について検討を進めていきます。また、その検討にあたっては、統合校の位置や通学区域などを審議する機関である学校教育審議会に諮問するとともに、保護者や地域と協議しながら決定していくこととなります。

なお、文部科学省では、30年ぶりに学級編制の標準を見直し、平成23年度から小学校1年生の1学級の上限を40人から35人に引き下げ、今後、小学校2年生以上の学級編制の標準の改定や教職員配置について、引き続き検討を進めていくこととなっています。

本計画の実施にあたっては、このような国の動向を注視するとともに、児童生徒数の推計の見直しや、市内の人口移動をとらえながら必要に応じて見直しを図っていきます。

第1章 再編計画の基本的な考え方について

函館市立小・中学校再編計画（以下、再編計画とする。）は、平成21年3月に策定した「函館市立小・中学校の配置についての基本指針」（以下、基本指針とする。）に基づき、将来的な学校規模の状況を見据え、基本指針で編制した再編グループの中から、具体的に再編の検討を行うグループを定め、学校規模の状況やこれまでの統廃合の経過、学校施設の老朽化などを勘案しながら、統廃合や統廃合に伴う通学区域の変更について、必要性の高いグループから順次検討を進めていきます。

また、統廃合や統廃合に伴う通学区域の変更については、基本指針で編制した再編グループ内で検討することを基本としますが、保護者、地域の意向や小・中学校の通学区域の整合性を踏まえ、他グループの学校と調整するなど、柔軟に対応することも検討していきます。

なお、再編にあたっては、地域の状況や人口動態などを踏まえ、保護者や地域住民との話し合いを行いながら個別に統廃合の実施方針を決定し、段階的に継続して進めてまいります。

～「函館市立小・中学校の配置についての基本指針」概要～

1. 望ましい学校規模

- ・小学校 12学級以上（12学級～18学級を目安）
クラス替えが可能となる1学年2学級規模を最小規模とする。
- ・中学校 9学級以上（9学級～18学級を目安）
全教科の教員配置が可能であり、さらに、授業時数の多い5教科で複数の教員配置が可能な1学年3学級を最小規模とする。

2. 学校配置の基本指針

（1）再編グループの導入

小・中学校の連携や通学区域の整合性を図りながら再編を進めるために、市内をいくつかのグループに分け、原則その中で、統廃合や通学区域の変更を検討していきます。

（2）地域性への配慮

①旧函館地区

望ましい学校規模を下回る場合でも、機械的には行わず、地域性に配慮します。

②旧4町村地区

当面、旧行政区域を越えた再編は行わないこととします。

（3）通学区域の調整

- ・進学時の不安を軽減させるため、一つの小学校から同じ中学校に進学するよう努めます。
- ・多様な人間関係を経験させるため、一つの中学校に複数の小学校から進学するよう努めます。
- ・地域によっては、通学距離等を考慮し隣接の学校も選択できるように配慮します。

(4) スクールバス導入の検討

統廃合にあたっては、地理的条件や通学路の状況を勘案し、スクールバスの導入も検討します。

3. 豊かな教育環境の整備

(1) 豊かな心の育成と確かな学力の向上

望ましい学校規模を確保することにより、児童生徒同士の交流や教員との出会い、多様な部（クラブ）活動の提供など、社会性や人間性を育む機会の拡大を図り、あわせて充実した教員体制のもとで、教育の一層の充実を図ります。

(2) 学習環境の整備

函館市の学校施設は、児童生徒の急増対策のため、おおむね昭和30年代から昭和50年代に校舎の改築や増築を進めてきましたが、建築後、約30年から40年を経過しており、改修等の整備が必要な時期にあります。

一方、築後50年以上を経過した学校建物も、小学校4校、中学校2校、計6校あり、改築等を検討する時期を迎えています。また、平成7年の阪神淡路大震災では、昭和56年以前に建設した建物が特に著しい被害を受けたため、文部科学省は学校施設の耐震化を求めています。

厳しい財政状況にありますが、函館市の学校建物の多くがこうした問題を抱えていることから、重点的な整備と効率的な施設の活用を図ります。

【再編グループ】

第1グループ

小学校（3校） 弥生、青柳、あさひ
中学校（3校） 西、潮見、宇賀の浦

第2グループ

小学校（12校） 中部、北星、八幡、万年橋、港、高盛、千代ヶ岱、中島、千代田、柏野、金堀、亀田
中学校（7校） 凌雲、五稜、大川、港、光成、的場、桐花

第3グループ

小学校（8校） 桔梗、中の沢、北昭和、昭和、赤川、中央、北美原、神山
中学校（3校） 赤川、桔梗、亀田

第4グループ

小学校（4校） 北日吉、鍛神、東山、本通
中学校（2校） 本通、北

第5グループ

小学校（8校） 駒場、深堀、日吉が丘、湯川、高丘、上湯川、旭岡、南本通
中学校（4校） 深堀、湯川、戸倉、旭岡

第6グループ

小学校（4校） 亀尾、鱒川、東、石崎
中学校（3校） 亀尾、鱒川、銭亀沢

第7グループ（戸井・恵山・楳法華・南茅部地区）

小学校（7校） 戸井西、日新、えさん、楳法華、磨光、白尻、大船
中学校（6校） 潮光、日新、恵山、楳法華、尾札部、白尻

※H23.4に木直小学校と磨光小学校が統合したため、木直小学校は除いています。

第2章 グループ別の再編の見通しについて

函館市教育委員会では、平成22年4月2日～平成23年4月1日生まれの子どもが、小学校に入学する平成29年度（中学校についても同一年度）における児童生徒数と学級数の推計を基に、

- ・望ましい学校規模の確保（小学校12～18学級、中学校9～18学級）
- ・通学距離

などの観点から、各グループの再編の見通し（統廃合の必要性等）を、次項のとおりとしました。

ただし、第6・7グループの学校については、郊外にあり、集落が点在した地域性や合併の経過などを踏まえ、基本指針の考え方にに基づき、地域事情を勘案したものとしています。

なお、今後、この見通しを基に再編を検討していきますが、この見通しは現時点での想定であり、修正が必要な場合には、適宜修正していきます。

○児童生徒数・学級数の推計（計画内は次の考え方で算出した数値を使用）

①児童生徒数

- ・平成23年度 学校基本調査（平成23年5月1日現在）
- ・平成24年度以降 1年生は、平成23年5月1日現在の住民基本台帳に登録されている人数に、過去5年間の平均入学率を乗じて算出、その他の学年は、前年度の人数を翌年度にスライド

②学級数

- ・平成23年度 学校基本調査（平成23年5月1日現在）
- ・平成24年度以降 23年度の学級編制基準（小学校1年生35人、その他の学年40人）、および、北海道教育委員会で実施している少人数学級実践研究事業実施要項の基準を踏まえ算出

■少人数学級実践研究事業

- ・中学校第1学年
義務教育諸学校学級編制基準規則（昭和41年北海道教育委員会規則第1号）別表により算定した学級数（以下「基準学級数」という。）が2学級以上で1学級当たりの生徒数が、35人を超える学校。
- ・小学校第2学年
児童数の減により実施年度の基準学級数が、前年度の基準学級数より1学級の減となり、2学級以上で1学級当たりの児童数が35人を超える学校。

1 平成29年度における再編の見通し（一覧）

再編の見通しの校数は、平成22年4月2日～平成23年4月1日に生まれた子ども（0歳児）が、小学校に入学する平成29年度（中学校についても同一年度）の児童生徒数や学級数を基に想定したもので、下表のとおりと考えています。

グループ名	小学校名	再編の見通し	中学校名	再編の見通し
第1	弥生，青柳，あさひ	3校→2校	西，潮見， 宇賀の浦	3校→1校
第2	中部，北星，八幡， 万年橋，港，高盛， 千代ヶ岱，中島，千代田 柏野，金堀，亀田	12校→7校	凌雲，五稜， 大川，港， 光成，的場， 桐花	7校→3校
第3	桔梗，中の沢，北昭和， 昭和，赤川，中央， 北美原，神山	8校→7校	赤川，桔梗， 亀田	3校→3校
第4	北日吉，鍛神，東山， 本通	4校→4校	本通，北	2校→2校
第5	駒場，深堀，日吉が丘， 湯川，高丘，上湯川， 旭岡，南本通	8校→6校	深堀，湯川， 戸倉，旭岡	4校→3校
第6	亀尾，鱒川， 東，石崎	4校→4校	亀尾，鱒川， 銭亀沢	3校→3校
第7	戸井西，日新， えさん，椴法華， 磨光，白尻，大船	7校→4校	潮光，日新， 恵山，椴法華， 尾札部，白尻	6校→4校
計	小学校 46校→34校		中学校 28校→19校	

2 再編の見通し（グループ別）

(1) 第1グループ

○小学校・・・弥生，青柳，あさひ 計 3校（3校 → 2校）

①児童数の推移および推計（普通学級）

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
弥生	9	229	9	220	8	204	8	208	8	206	7	190	7	201
青柳	9	236	8	234	9	239	7	224	7	227	8	239	8	234
あさひ	11	267	11	264	10	263	10	262	9	241	10	248	10	250
児童総数		732		718		706		694		674		677		685

※H23. 5. 1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建設年		備考	統廃合の経過
	校舎	屋内運動場		
弥生	H23 (予定)	H23 (予定)		H21 統合（西, 弥生）
青柳	S11	S11		H 2 統合（谷地頭, 青柳）
あさひ	H13	H13		H14 統合（東川, 大森）

※統廃合の経過：昭和 40 年以降の統廃合について記載

③学校配置の考え方

西部地区の小学校は、これまで児童数の減少により統廃合を進めてきましたが、今後も児童数は微減し、学級数は減少するものと推計しています。

こうした状況を踏まえると、本グループは統廃合の検討が必要であり、その配置数については2校と想定しています。

○中学校・・・西，潮見，宇賀の浦

計 3校（3校 → 1校）

①生徒数の推移および推計（普通学級）

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
西	4	107	4	111	3	105	3	94	3	100	3	102	3	95
潮見	6	196	6	193	6	175	6	173	6	162	6	161	6	145
宇賀の浦	5	137	5	140	5	124	6	132	6	130	5	126	5	130
生徒総数		440		444		404		399		392		389		370

※H23. 5. 1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建設年		備考	統廃合の経過
	校舎	屋内運動場		
西	S50	S51	校舎はS50～S53にかけて建設	S52 統合（船見, 愛宕）
潮見	H 4	H 6		
宇賀の浦	S27	S27	校舎はS27～S34にかけて建設	H 5 統合（旭, 新川）

※統廃合の経過：昭和 40 年以降の統廃合について記載

③学校配置の考え方

西部地区の中学校は、これまで生徒数の減少により統廃合を進めてきましたが、現在、学年1～2学級の小規模校となっており、また、今後も生徒数は減少するものと推計しています。

こうした状況を踏まえますと、本グループは統廃合の検討が必要であり、その配置数については1校と想定しています。

(2) 第2グループ

○小学校・・・中部，北星，八幡，万年橋，港，高盛，千代ヶ岱，中島，千代田，柏野，金堀，亀田 計12校（12校 → 7校）

①児童数の推移および推計（普通学級）

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
中部	6	174	6	173	6	158	6	157	6	155	6	153	6	136
北星	6	122	6	120	6	106	6	110	6	123	6	119	6	119
八幡	12	430	12	420	12	406	12	400	12	396	12	401	12	385
万年橋	6	156	6	149	6	159	6	160	6	151	6	156	6	157
港	14	442	14	420	12	396	12	389	12	376	13	395	14	409
高盛	7	192	7	181	7	176	7	175	7	182	7	179	6	167
千代ヶ岱	6	131	6	121	6	128	6	125	6	125	6	118	6	128
中島	7	215	8	215	7	214	7	204	7	193	6	183	6	174
千代田	6	134	6	139	6	133	6	135	6	134	6	146	6	144
柏野	12	344	12	338	12	337	12	341	12	337	12	343	12	334
金堀	11	272	12	273	11	265	10	258	9	257	8	246	8	235
亀田	12	302	12	298	12	284	11	283	11	285	11	284	11	279
児童総数		2,914		2,847		2,762		2,737		2,714		2,723		2,667

※H23. 5.1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建設年		備考	統廃合の経過
	校舎	屋内運動場		
中部	S52	S53	校舎はS52, S53に建設	S53 統合（新川, 松風）
北星	S62	S63		S63 統合（巴, 若松）
八幡	H 5	H 6		
万年橋	H 3	H 5		
港	H 6	H 7	校舎の一部はS57に建設	
高盛	S10	S10		
千代ヶ岱	S34	S54	校舎はS34～S39にかけて建設	
中島	H 5	H 6		
千代田	S60	H 6		
柏野	H 1	H 4	校舎はH1, H2に建設	
金堀	H 7	H 8		
亀田	H 2	S38	校舎の一部はS35, S38に建設	

※統廃合の経過：昭和40年以降の統廃合について記載

③学校配置の考え方

本グループには比較的近距離の中に12校の小学校がありますが，現在，学年1学級あるいはそれに近い学校が7校あるなど小規模化しており，また，今後も児童数は減少するものと推計しています。

こうした状況を踏まえますと，本グループは統廃合の検討が必要であり，その配置数については7校と想定しています。

○中学校・・・凌雲，五稜，大川，港，光成，的場，桐花

計 7校（7校 → 3校）

①生徒数の推移および推計（普通学級）

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
凌雲	6	194	6	190	6	192	6	192	6	192	7	202	6	204
五稜	6	188	6	186	6	180	6	181	6	180	6	165	6	163
大川	6	181	6	178	6	185	6	179	6	190	6	170	6	176
港	8	240	8	232	8	249	8	233	7	214	6	200	7	201
光成	3	96	3	88	3	91	3	89	3	80	3	75	3	84
的場	10	336	10	335	9	328	10	321	10	318	9	317	10	320
桐花	9	291	9	277	9	273	9	268	9	275	9	275	9	261
生徒総数		1,526		1,486		1,498		1,463		1,449		1,404		1,409

※H23. 5.1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建設年		備考	統廃合の経過
	校舎	屋内運動場		
凌雲	S33	S34	校舎はS33～S39にかけて建設	S57 統合（中央，松川）
五稜	S36	S37	校舎はS36～S40にかけて建設（H22耐震補強（屋），H23耐震補強完了予定（校））	
大川	S39	H 7	校舎はS39～S44にかけて建設	
港	H 6	H 7		
光成	S45	H 6	校舎はS45～S47にかけて建設	
的場	S11	S11	校舎の一部はS30に建設	
桐花	H 8	H 9	校舎の一部はS52に建設（H10耐震補強・老朽改造）	

※統廃合の経過：昭和40年以降の統廃合について記載

③学校配置の考え方

本グループには7校の中学校がありますが、現在、的場中学校，桐花中学校を除く5校は、学年によっては1～2学級の小規模校となっており、また、今後も生徒数は減少するものと推計しています。

こうした状況を踏まえ、本グループは統廃合の検討が必要であり、その配置数については3校と想定しています。

(3) 第3グループ

○小学校・・・桔梗，中の沢，北昭和，昭和，赤川，中央，北美原，神山

計 8校 (8校 → 7校)

①児童数の推移および推計 (普通学級)

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
桔 梗	17	549	18	584	20	633	20	657	20	659	19	651	18	645
中の沢	16	451	15	428	13	405	12	380	12	372	12	358	12	340
北昭和	12	362	12	347	12	325	12	322	12	304	12	306	12	315
昭 和	18	530	17	507	17	492	17	489	16	480	15	467	14	455
赤 川	6	156	6	152	6	137	6	130	6	127	6	121	6	118
中 央	12	343	12	337	12	334	12	326	12	323	12	306	12	298
北美原	22	732	21	703	21	709	20	670	19	650	18	598	18	554
神 山	14	400	13	356	12	326	11	297	11	275	10	265	10	251
児童総数		3,523		3,414		3,361		3,271		3,190		3,072		2,976

※H23. 5. 1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建 設 年		備 考	統廃合の経過
	校 舎	屋内運動場		
桔 梗	H 2	H 5	校舎の一部はS53, 55に建設	
中の沢	S62	S62	H15に校舎を増築	
北昭和	S51	S52	校舎はS51～S59にかけて建設	
昭 和	H18	S41		
赤 川	H 4	H 5	校舎の一部はS51～S55にかけて建設	
中 央	S48	S50	校舎はS48～S55にかけて建設	
北美原	S53	S54	校舎はS53, S54, H5にかけて建設 (H5に校舎を増築した際に新耐震基準を確保済み)	
神 山	H 7	H 7	H12に校舎を増築	

※統廃合の経過：昭和40年以降の統廃合について記載

③学校配置の考え方

本グループの8校は，市の北部・北東部地区に位置し，現在，赤川小学校を除く7校が12学級を超えるなど，一定程度の学校規模を確保していますが，現状の推計において，平成29年度のグループ全体の児童数は，約550人程度減少するものと見込んでいます。

こうした状況を踏まえますと，本グループにおいては統廃合の検討が必要であり，その配置については7校と想定しています。

なお，現在，石川地区で区画整理事業が進められていることから，人口移動の動向を注視していく必要があります。

○中学校・・・赤川，桔梗，亀田

計 3校（3校 → 3校）

①生徒数の推移および推計（普通学級）

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
赤川	14	474	13	444	12	430	12	395	11	371	11	349	11	341
桔梗	12	404	13	416	13	446	14	492	14	508	16	526	15	520
亀田	19	662	19	677	18	652	19	653	18	628	19	650	19	657
生徒総数		1,540		1,537		1,528		1,540		1,507		1,525		1,518

※H23. 5. 1現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建設年		備考	統廃合の経過
	校舎	屋内運動場		
赤川	S55	S55	校舎はS55～H4にかけて建設	
桔梗	S59	S59	H9に校舎を増築	
亀田	S63	S44	校舎の一部はS41～S49にかけて建設	

※統廃合の経過：昭和40年以降の統廃合について記載

③学校配置の考え方

本グループの3校は、今後も一定程度の学校規模を確保するものと推計しており、学校配置については現状のままと考えています。

なお、現在、石川地区で区画整理事業が進められていることから、人口移動の動向を注視していく必要があります。

(4) 第4グループ

○小学校・・・北日吉，鍛神，東山，本通 計 4校（4校 → 4校）

①児童数の推移および推計（普通学級）

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
北日吉	13	423	12	377	12	357	12	338	12	315	11	288	10	284
鍛 神	14	439	13	419	14	414	13	401	14	405	12	392	13	389
東 山	17	476	16	463	15	469	14	435	14	426	13	403	13	395
本 通	12	357	12	345	12	347	12	331	12	343	12	326	12	311
児童総数		1,695		1,604		1,587		1,505		1,489		1,409		1,379

※H23. 5. 1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建 設 年		備 考	統 廃 合 の 経 過
	校 舎	屋内運動場		
北日吉	S49	S50	校舎はS49～S54にかけて建設	
鍛 神	H 8	S46	校舎の一部はS46, S50, S55に建設 H9 老朽改造・耐震補強（屋）	
東 山	S53	S53	校舎はS53, S54にかけて建設（H22耐震補強（屋））	
本 通	S46	S47	校舎はS46～S56にかけて建設	

※統廃合の経過：昭和40年以降の統廃合について記載

③学校配置の考え方

現在の学校規模や今後の見込みにおいても、一定程度の学校規模を確保しており、今後も大きな児童数の減少がなければ、学校配置については現状のままと考えています。

○中学校・・・本通，北

計 2校（2校 → 2校）

①生徒数の推移および推計（普通学級）

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
本 通	18	607	19	646	18	648	19	628	18	589	18	600	17	579
北	9	311	10	335	9	319	9	319	9	298	9	288	9	271
生徒総数		918		981		967		947		887		888		850

※H23. 5. 1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建 設 年		備 考	統 廃 合 の 経 過
	校 舎	屋内運動場		
本 通	S50	S50	校舎はS50～S61にかけて建設	
北	S57	S57	校舎はS57～S63にかけて建設	

※統廃合の経過：昭和 40 年以降の統廃合について記載

③学校配置の考え方

現在の学校規模や今後の見込みにおいても、一定程度の学校規模を確保しており、今後も大きな生徒数の減少がなければ、学校配置については現状のままと考えています。

(5) 第5グループ

○小学校・・・駒場，深堀，日吉が丘，湯川，高丘，上湯川，旭岡，南本通
計 8校（8校 → 6校）

①児童数の推移および推計（普通学級）

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
駒場	12	345	12	365	12	372	12	360	12	345	12	343	12	342
深堀	12	291	12	292	12	280	12	267	11	272	10	256	10	252
日吉が丘	12	336	12	328	12	327	12	311	12	316	12	310	12	293
湯川	12	336	12	323	12	314	12	314	12	316	12	320	12	327
高丘	12	327	12	321	12	323	12	333	12	333	12	317	12	315
上湯川	6	174	6	177	6	172	6	164	6	164	6	155	6	156
旭岡	11	260	10	250	9	242	7	226	6	211	6	203	6	187
南本通	11	252	10	242	10	229	8	207	7	199	6	191	7	205
児童総数		2,321		2,298		2,259		2,182		2,156		2,095		2,077

※H23. 5.1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建設年		備考	統廃合の経過
	校舎	屋内運動場		
駒場	H 1	H 3	校舎はH1, H2に建設	
深堀	S46	S48	校舎はS46～S56にかけて建設（H22耐震補強（屋））	
日吉が丘	S38	S39	校舎はS38～S44にかけて建設（H23耐震補強完了予定（校・屋））	
湯川	S61	S35	校舎の一部はS43～S49にかけて建設	
高丘	S51	S52	校舎はS51～S54にかけて建設	
上湯川	S45	S47	校舎はS45～S54にかけて建設	
旭岡	S53	S53	校舎はS53～S60にかけて建設	
南本通	S58	S57	校舎はS58, S60に建設	

③学校配置の考え方

本グループの8校は，現在，上湯川小学校を除き，一定程度の学校規模を確保していますが，今後，児童数は減少するものと推計しています。

こうした学校規模の状況を踏まえると，本グループにおいては統廃合の検討が必要であり，その配置数については6校と想定しています。

○中学校・・・深堀，湯川，戸倉，旭岡 計 4校（4校 → 3校）

①生徒数の推移および推計（普通学級）

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
深堀	12	367	11	325	10	299	9	278	10	303	9	308	9	306
湯川	9	323	9	309	9	289	10	298	9	286	9	287	9	276
戸倉	9	317	9	299	9	292	9	276	9	259	8	255	8	254
旭岡	6	156	6	151	6	143	6	132	6	126	5	120	4	113
生徒総数		1,163		1,084		1,023		984		974		970		949

※H23. 5. 1現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建設年		備考	統廃合の経過
	校舎	屋内運動場		
深堀	H 7	S36		
湯川	H 3	H 5	校舎の一部はS41～S45にかけて建設	
戸倉	S47	S49	校舎はS47～S63にかけて建設	
旭岡	S56	S56	校舎はS56～S63にかけて建設	

③学校配置の考え方

本グループの4校は、現在、旭岡中学校を除き、一定程度の学校規模を確保していますが、今後、生徒数は減少するものと推計しています。

こうした状況を踏まえますと、本グループは統廃合の検討が必要であり、その配置数については3校と想定しています。

(6) 第6グループ

○小学校・・・亀尾, 鱒川, 東, 石崎 計 4校 (4校 → 4校)

①児童数の推移および推計 (普通学級)

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
亀尾	3	35	3	27	3	28	3	25	4	23	3	22	3	22
鱒川	3	15	3	12	3	13	3	13	3	12	3	12	2	10
東	6	122	6	116	6	106	6	105	6	107	6	102	6	99
石崎	3	24	3	17	3	18	3	19	3	16	3	20	3	15
児童総数		196		172		165		162		158		156		146

※H23. 5. 1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建設年		備考	統廃合の経過
	校舎	屋内運動場		
亀尾	S41	S42	併置校 (亀尾中学校)	H15 統合 (亀尾, 蛾眉野)
鱒川	H 8	H 9	併置校 (鱒川中学校)	
東	S48	S49	校舎はS48～S54にかけて建設	S47 統合 (宇賀, 銭亀)
石崎	H 8	H 8	校舎の一部はS33, S34に建設	

③学校配置の考え方

本グループの4校は、現在学年1～2学級の小規模な学校であり、今後も児童数は減少するものと推計していますが、地域性に配慮すべきこととしたグループであることから、学校配置については現状のままと考えています。

ただし、本グループの学校は全て小規模校であり、今後の児童数の動向を注視していく必要があるものと考えています。

○中学校・・・亀尾，鱒川，銭亀沢 計 3校（3校 → 3校）

①生徒数の推移および推計（普通学級）

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
亀尾	3	17	3	23	3	23	3	27	3	23	3	23	3	20
鱒川	3	17	3	17	2	12	2	12	2	10	1	7	1	5
銭亀沢	5	116	4	100	3	85	3	75	3	71	3	59	3	60
生徒総数		150		140		120		114		104		89		85

※H23. 5. 1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建設年		備考	統廃合の経過
	校舎	屋内運動場		
亀尾	S41	S42	併置校（亀尾小学校）	H15 統合（亀尾, 蛾眉野）
鱒川	H 8	H 9	併置校（鱒川小学校）	
銭亀沢	S54	S57	校舎はS54, S56に建設	

③学校配置の考え方

本グループの3校は、現在学年1～2学級の小規模な学校であり、今後も生徒数は減少するものと推計していますが、地域性に配慮すべきこととしたグループであることから、学校配置については現状のままと考えています。

ただし、本グループの学校は全て小規模校であり、今後の生徒数の動向を注視していく必要があると考えています。

(7) 第7グループ

○小学校・・・戸井西，日新，えさん，榎法華，磨光，白尻，大船

計 7校 (7校 → 4校)

①児童数の推移および推計 (普通学級)

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
戸井西	6	70	6	64	6	59	5	52	5	54	5	48	4	39
日新	5	54	4	45	4	43	4	38	3	37	3	29	3	25
えさん	6	133	6	122	6	114	6	105	6	95	6	96	6	93
榎法華	4	38	4	36	4	38	4	37	4	37	4	37	4	36
磨光	7	159	6	146	6	142	6	142	6	133	6	134	6	137
白尻	4	41	4	35	4	37	4	35	4	33	4	38	4	42
大船	5	47	4	46	4	42	4	40	4	37	4	38	4	37
児童総数		542		494		475		449		426		420		409

※H23. 5. 1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建設年		備考	統廃合の経過
	校舎	屋内運動場		
戸井西	S29	S60	校舎はS29, S30に建設	H10 統合(小安, 汐首)
日新	S52	S52	校舎はS52, S53に建設	H10 統合(日新, 釜歌)
えさん	S57	S57	校舎はS57, S60に建設	H16 統合(尻岸内, 恵山, 古武井, 日浦)
榎法華	S53	S54		
磨光	H 8	H 8		H23 統合(木直, 磨光)
白尻	S46	S43		
大船	S52	S52		H11 統合(磯谷, 大船)

③学校配置の考え方

本グループは旧4町村地域の小学校であり、当面、旧行政区域を超えた統合は行わないこととしますが、戸井地区は2校、南茅部地区には3校の小学校があり、この両地区の学校は、現在、戸井西小学校と磨光小学校を除き、複式学級となっており、今後も児童数はさらに減少するものと推計しています。

こうした状況を踏まえますと戸井地区および南茅部地区は、統廃合の検討が必要であり、その配置数については、それぞれ1校と想定しています。

○中学校・・・潮光，日新，恵山，榎法華，尾札部，白尻

計 6校（6校 → 4校）

①生徒数の推移および推計（普通学級）

	H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
潮光	3	44	3	48	3	38	3	34	3	30	3	26	3	29
日新	3	35	3	41	3	35	3	28	3	20	3	20	3	18
恵山	3	78	3	70	3	81	3	79	3	76	3	63	3	56
榎法華	3	41	3	35	3	28	3	22	3	20	3	15	2	13
尾札部	3	87	3	102	3	96	3	90	3	83	3	76	3	68
白尻	3	62	3	66	3	58	3	49	3	38	3	33	3	29
生徒総数		347		362		336		302		267		233		213

※H23. 5. 1 現在の住民基本台帳に基づく推計

②施設の状況および統廃合の経過

	建設年		備考	統廃合の経過
	校舎	屋内運動場		
潮光	H 8	H 5		
日新	S55	S58		
恵山	S55	S55		H17 統合(東光, 尻岸内)
榎法華	S57	S57		
尾札部	S47	S41	校舎はS47～S50にかけて建設	S42 統合(古部, 尾札部)
白尻	S52	S41	校舎の一部はS30, S40に建設	

③学校配置の考え方

本グループは旧4町村地域の中学校であり，当面，旧行政区域を超えた統廃合は行わないこととしますが，戸井地区は2校，南茅部地区には2校の中学校があり，今後も生徒数はさらに減少するものと推計しています。

こうした状況を踏まえたと戸井地区および南茅部地区は，統廃合の検討が必要であり，その配置数については，それぞれ1校と想定しています。

第3章 再編計画の基本的な進め方および具体的な取り組みについて

前述の「再編の見通し」の中で、統廃合の検討が必要なグループを定めるとともに、さらに、その学校配置数の見通しを示しました。

今後、この見通しを基に、グループ内の統廃合について具体的な検討を行っていきますが、その進め方については、中学校は専門外教員の指導や部活動の実施面などの課題があること、小学校入学から中学校卒業までに、できるだけ統廃合を二度経験させることのないような配慮が必要であること、小中学校の通学区域の連携を図るためには、中学校の通学区域を一つの目安としながら小学校の統廃合を検討したいと考えていることから、各グループにおいては、まず、中学校の統廃合を先行して検討したいと考えています。

また、学校規模の状況、児童生徒数の減少率、学校施設の老朽化などといった要素を踏まえ、下表のとおり進めていきます。

なお、保護者や地域から統廃合の意向が示された場合には、計画にとらわれず、随時検討していきます。

【再編計画】

- 第1期 ※統廃合の検討開始時期 → 計画策定後から
第2グループ（中学校）
- 第2期 ※統廃合の検討開始時期 → 第1期の方針が一定程度まとまった時点から
第1グループ（中学校）、第2グループ（小学校）
- 第3期 ※統廃合の検討開始時期 → 第2期の方針が一定程度まとまった時点から
第5グループ（中学校）、第1グループ（小学校）
- 第4期 ※統廃合の検討開始時期 → 第3期の方針が一定程度まとまった時点から
第3グループ（小学校）、第5グループ（小学校）

※第6グループ、第7グループについては、小規模な学校が多く、児童生徒数の状況に応じて適宜検討します。

【検討開始時期の考え方】

○中学校の統廃合

- ・第2グループ（中学校）は、小規模な学校が多く、生徒数の減少率も高く、学校施設の老朽化などの課題を抱えており、早急に再編の方針を決定する必要があることから第1期とします。
- ・第1グループは、平成21年4月に、同グループの弥生小学校が統合した経過があり、地域の急激な変化を避けるという観点から第2期とし、第5グループは第1、第2グループと比較し、一定程度の学校規模が保たれていることから第3期とします。

○小学校の統廃合

- ・小学校の統廃合の検討開始時期は、同一グループ中学校の次期分と位置付けます。
※第3グループは小学校のみを再編の対象としていますが、推計では一定程度の学校規模を保てる見込みであることから、第4期とします。

・学校規模、児童生徒数の減少率データ

再編対象グループ	小学校					中学校						
	学校名	H17	H23	H29推計		H17とH29比較(6年前と6年後)	学校名	H17	H23	H29推計		H17とH29比較(6年前と6年後)
		児童数	児童数	学級数	児童数			児童数増減率	生徒数	生徒数	学級数	
第1	弥生	254	229	7	201	△ 20.9 %	西	104	107	3	95	△ 8.7 %
	青柳	279	236	8	234	△ 16.1 %	潮見	215	196	6	145	△ 32.6 %
	あさひ	277	267	10	250	△ 9.8 %	宇賀の浦	147	137	5	130	△ 11.6 %
	計	810	732		685	△ 15.4 %	計	466	440		370	△ 20.6 %
第2	中部	170	174	6	136	△ 20.0 %	凌雲	231	194	6	204	△ 11.7 %
	北星	141	122	6	119	△ 15.6 %	五稜	253	188	6	163	△ 35.6 %
	八幡	587	430	12	385	△ 34.4 %	大川	230	181	6	176	△ 23.5 %
	万年橋	137	156	6	157	14.6 %	港	239	240	7	201	△ 15.9 %
	港	527	442	14	409	△ 22.4 %	光成	122	96	3	84	△ 31.2 %
	高盛	221	192	6	167	△ 24.4 %	的場	446	336	10	320	△ 28.3 %
	千代ヶ岱	217	131	6	128	△ 41.0 %	桐花	344	291	9	261	△ 24.1 %
	中島	205	215	6	174	△ 15.1 %						
	千代田	141	134	6	144	2.1 %						
	柏野	401	344	12	334	△ 16.7 %						
	金堀	314	272	8	235	△ 25.2 %						
	亀田	394	302	11	279	△ 29.2 %						
計	3,455	2,914		2,667	△ 22.8 %	計	1,865	1,526		1,409	△ 24.5 %	
第3	桔梗	434	549	18	645	48.6 %	赤川	544	474	11	341	△ 37.3 %
	中の沢	331	451	12	340	2.7 %	桔梗	362	404	15	520	43.7 %
	北昭和	323	362	12	315	△ 2.5 %	亀田	695	662	19	657	△ 5.5 %
	昭和	530	530	15	455	△ 14.2 %						
	赤川	235	156	6	118	△ 49.8 %						
	中央	482	343	12	298	△ 38.2 %						
	北美原	717	732	18	554	△ 22.7 %						
	神山	567	400	10	251	△ 55.7 %						
計	3,619	3,523		2,976	△ 17.8 %	計	1,601	1,540		1,518	△ 5.2 %	
第5	駒場	441	345	12	342	△ 22.5 %	深堀	343	367	9	306	△ 10.8 %
	深堀	363	291	10	252	△ 30.6 %	湯川	336	323	9	276	△ 17.9 %
	日吉が丘	327	336	12	293	△ 10.4 %	戸倉	452	317	8	254	△ 43.8 %
	湯川	426	336	12	327	△ 23.2 %	旭岡	201	156	4	113	△ 43.8 %
	高丘	423	327	12	315	△ 25.5 %						
	上湯川	217	174	6	156	△ 28.1 %						
	旭岡	351	260	6	187	△ 46.7 %						
	南本通	302	252	7	205	△ 32.1 %						
計	2,850	2,321		2,077	△ 27.1 %	計	1,332	1,163		949	△ 28.8 %	
第6	亀尾	22	35	3	22	0.0 %	亀尾	25	17	3	20	△ 20.0 %
	鱒川	20	15	2	10	△ 50.0 %	鱒川	21	17	1	5	△ 76.2 %
	東	208	122	6	99	△ 52.4 %	銭亀沢	126	116	3	60	△ 52.4 %
	石崎	57	24	3	15	△ 73.7 %						
計	307	196		146	△ 52.4 %	計	172	150		85	△ 50.6 %	
第7	戸井西	96	70	4	39	△ 59.4 %	潮光	42	44	3	29	△ 31.0 %
	日新	81	54	3	25	△ 69.1 %	日新	51	35	3	18	△ 64.7 %
	えさん	187	133	6	93	△ 50.3 %	恵山	109	78	3	56	△ 48.6 %
	榎法華	77	38	4	36	△ 53.3 %	榎法華	46	41	2	13	△ 71.7 %
	磨光	219	159	6	137	△ 37.4 %	尾札部	124	87	3	68	△ 45.2 %
	白尻	83	41	4	42	△ 49.4 %	白尻	99	62	3	29	△ 70.7 %
	大船	57	47	4	37	△ 35.1 %						
計	800	542		409	△ 48.9 %	計	471	347		213	△ 54.8 %	

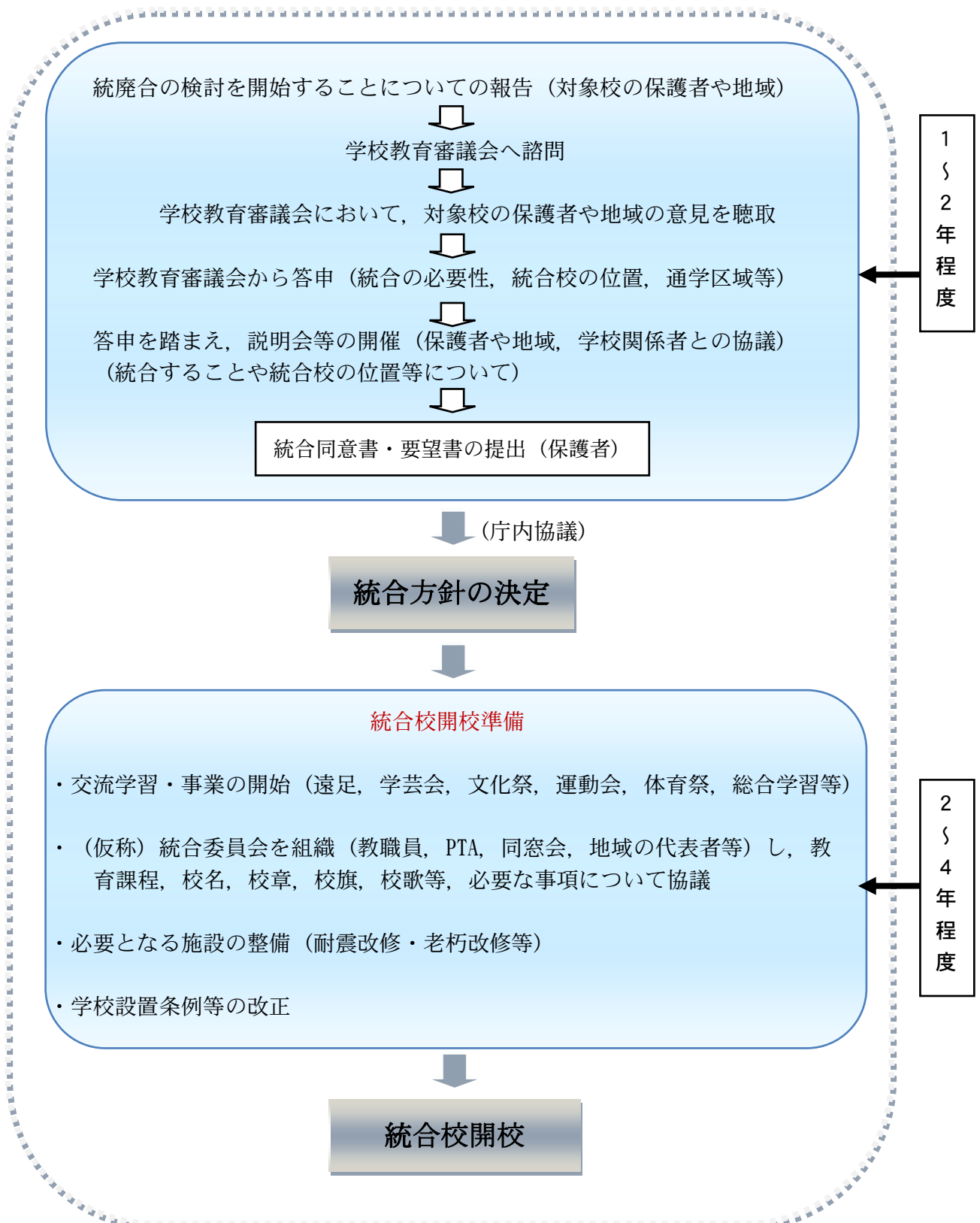
※第4グループの小・中学校の配置は現状のままと考えていることから学校規模等のデータは省略している。(第6グループは現状の配置としているが、児童生徒数の動向を注視していく必要があることから表記しています。)

※弥生小学校、亀尾小・中学校、えさん小学校、恵山中学校、磨光小学校のH14欄(児童数・生徒数増減率)は統合前の学校の人数を含んでいます。

1 統廃合の流れ

本計画策定後には、具体的な統廃合について学校教育審議会に諮問するとともに対象グループ（学校）の保護者や地域と協議を行っていきます。

また、保護者や地域の同意が得られた場合には、（仮称）統合準備委員会等を設置し、統合校の教育課程や校名などについて協議を行います。



2 再編計画（第1期）

第2グループ（中学校 凌雲，五稜，大川，港，光成，的場，桐花）

第2グループの中学校は、中心市街地の学校でありながら小規模な学校が多く、また、学校施設の老朽化などの課題を抱えており、早急に再編の方針を決定する必要があります。

① 学校配置の見通し

7校 → 3校

② 学校統廃合の検討開始時期

計画策定後に学校教育審議会に諮問するなど、保護者や地域との協議を開始します。

なお、協議の結果、保護者や地域などから統廃合の同意が得られた場合には、統合の実施スケジュールを公表していきます。

③ 学校規模・通学区域・学校施設の状況

ア 学校規模の状況（普通学級）

- ・平成23年5月現在、凌雲中、五稜中、大川中は6学級、港中は8学級、光成中は3学級、的場中は10学級、桐花中は9学級であります。
- ・生徒数の推計では、各校とも減り、学級数の増加は見込めない状況となっております。

※第1学年の学級数（H24以降）は、現在、北海道教育委員会で実施している少人数学級実践研究事業の基準を用いて算出

○凌雲中学校

	H23		H25		H27		H29		H31		H33		H35	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1年	2	62	2	69	2	61	2	64	2	57	2	70	2	55
2年	2	67	2	61	2	62	2	79	2	61	2	67	2	65
3年	2	65	2	62	2	69	2	61	2	64	2	57	2	70
計	6	194	6	192	6	192	6	204	6	182	6	194	6	190

○光成中学校

	H23		H25		H27		H29		H31		H33		H35	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1年	1	28	1	32	1	22	1	35	1	31	1	28	1	29
2年	1	29	1	31	1	26	1	27	1	24	1	25	1	26
3年	1	39	1	28	1	32	1	22	1	35	1	31	1	28
計	3	96	3	91	3	80	3	84	3	90	3	84	3	83

○的場中学校

	H23		H25		H27		H29		H31		H33		H35	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1年	4	116	3	100	4	109	4	112	3	102	4	108	3	92
2年	3	107	3	112	3	109	3	99	3	91	3	85	3	86
3年	3	113	3	116	3	100	3	109	3	112	3	102	3	108
計	10	336	9	328	10	318	10	320	9	305	10	295	9	286

○五稜中学校

	H23		H25		H27		H29		H31		H33		H35	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1年	2	54	2	64	2	61	2	53	2	52	2	69	2	55
2年	2	70	2	62	2	55	2	49	2	66	2	54	2	44
3年	2	64	2	54	2	64	2	61	2	53	2	52	2	69
計	6	188	6	180	6	180	6	163	6	171	6	175	6	168

○大川中学校

	H23		H25		H27		H29		H31		H33		H35	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1年	2	64	2	64	2	68	2	64	2	60	2	51	2	55
2年	2	57	2	57	2	58	2	44	2	42	2	52	2	58
3年	2	60	2	64	2	64	2	68	2	64	2	60	2	51
計	6	181	6	185	6	190	6	176	6	166	6	163	6	164

○桐花中学校

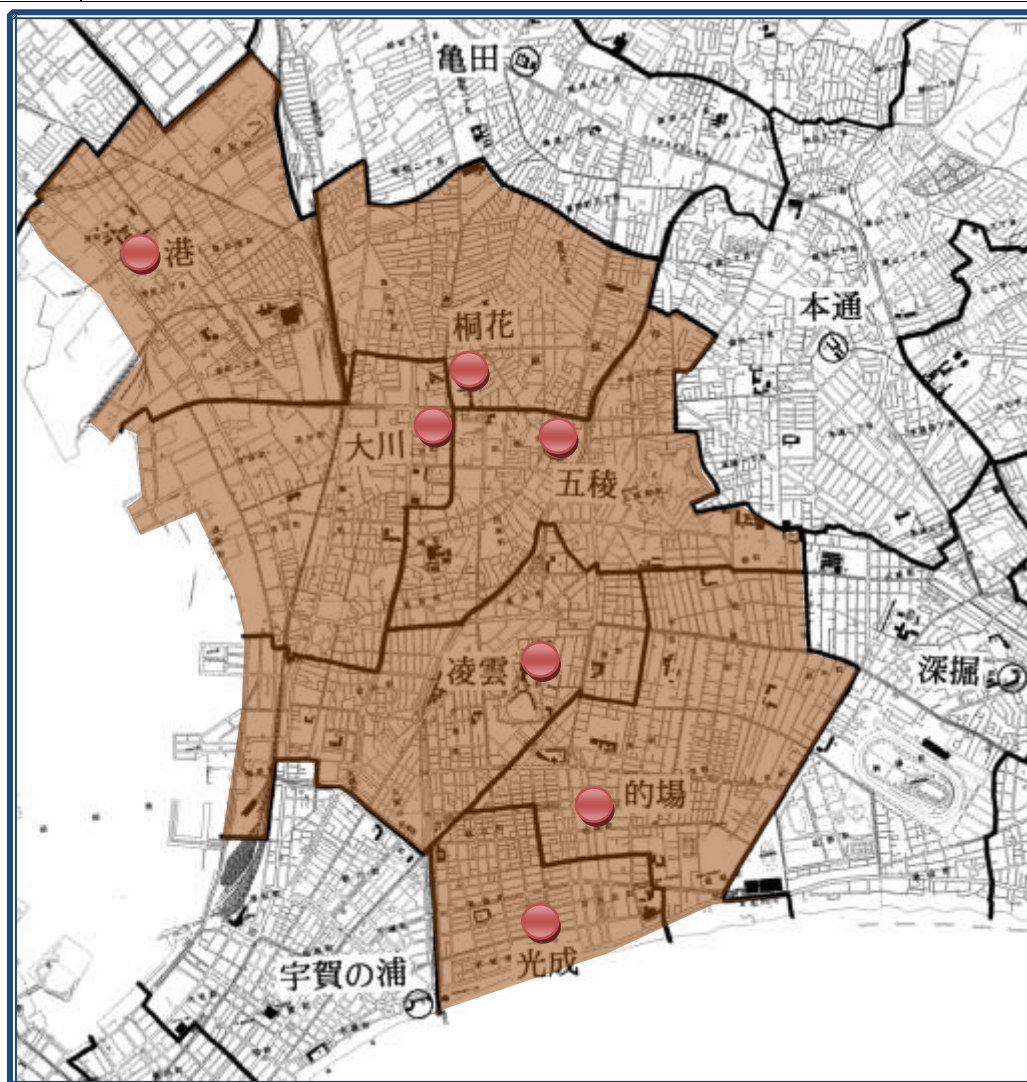
	H23		H25		H27		H29		H31		H33		H35	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1年	3	96	3	92	3	92	3	77	3	78	3	96	3	82
2年	3	96	3	85	3	91	3	92	2	75	2	80	3	82
3年	3	99	3	96	3	92	3	92	2	77	2	78	3	96
計	9	291	9	273	9	275	9	261	7	230	7	254	9	260

○港中学校

	H23		H25		H27		H29		H31		H33		H35	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数
1年	3	87	3	82	2	61	3	72	2	59	2	54	3	92
2年	2	65	2	80	2	71	2	68	2	57	2	67	3	85
3年	3	88	3	87	3	82	2	61	2	72	2	59	2	54
計	8	240	8	249	7	214	7	201	6	188	6	180	8	231

イ 通学区域の状況

凌雲	海岸町10～16・20～26, 大縄町10～24, 松川町1～35・41～47, 万代町1～4・14(1-8・38-42)～21(1・5-9・11-13・15・16), 宮前町1～8, 中島町, 上新川町, 千代台町3・12～16・22～29, 堀川町6, 本町, 梁川町
五稜	田家町, 白鳥町, 八幡町1・2・16-20, 宮前町23-35, 五稜郭町, 柳町, 中道1丁目1-21・23-35, 富岡町2丁目7(18-20)
大川	松川町36～40, 浅野町, 吉川町, 北浜町, 追分町, 亀田町, 大川町, 八幡町3～15・21・22, 宮前町9～22, 亀田本町1～7・51～63 万代町5～13・14(1-8・38-42を除く。)・21(1・5-9・11-13・15・16を除く。)・22
港	港町1丁目, 港町2丁目, 港町3丁目, 昭和町1-65・76-83, 亀田港町
光成	堀川町1-5・7-18・21-30, 高盛町, 宇賀浦町, 日乃出町
的場	千代台町1・2・4-11・17-21・30-32, 堀川町19・20・31, 的場町, 時任町, 杉並町, 松陰町, 人見町, 金堀町(10を除く。), 乃木, 柏木1-10・16-25
桐花	富岡町1丁目, 富岡町2丁目1-7(18-20を除く。)・8-69, 富岡町3丁目1-8, 亀田本町8-50・64-67, 中道2丁目36(1), 昭和1丁目3-5, 昭和2丁目1-18, 昭和4丁目1-11・14-16



ウ 学校施設の状況

各校の校舎等の建設年は、下表のとおりとなっています。

	校 舎		屋内運動場		校地面積 (㎡)
	建設年	面積 (㎡)	建設年	面積 (㎡)	
凌 雲	S33	6,176	S34	1,248	21,080 (借用 7,525)
五 稜	S39	4,236	S34	1,064	16,634
大 川	S39	4,271	H 6	1,225	17,936
港	H 6	4,439	H 7	1,200	20,612
光 成	S45	3,162	H 6	1,173	10,493
的 場	S11	6,245	S11	1,267	23,775 (借用 6,670)
桐 花	H 8	5,309	H 9	1,231	24,992